

**完全コンプラ機能不全！上場企業・東京衡機（7719）に書類を送ると石塚社長自ら反社（松尾隆）に情報漏洩！**

**上場企業に書類を送ったら、反社会勢力に情報漏洩！**

「そんなこと信じられない」という方も多いだろう。しかし、残念ながら実在するのだ！それも最近だ！しかも代表取締役社長自らがメールで反社に転送したのだから、開いた口が塞がらない。

今回は、前回5月の投稿から時間が経過したので、この情報漏洩問題を含め、気になる点を書いていきたい。

**東京衡機・石塚社長自ら反社（松尾隆）にメールで情報漏洩！**

こんなバカなことを誰がやったのかと言えば、東京衡機の石塚代表取締役社長である。なんと、石塚社長は、敬天新聞から東京衡機（石塚代表宛）に送られた質問状を、会社外部であり、しかも反社の松尾隆に転送したのだ！

にわかには信じがたい話であるが、なぜそのことに気づいたかというと、共通の知人を辿って投稿者のところに転送されてきたのだ！正確に言えば、東京衡機が受け取った書類（質問状）は、「石塚社長→松尾隆（反社）→都内A社長→投稿者」という順番に転送されてきたのだ。

こんな間抜けなことが、仮にも上場企業で行われていたとしたら、関係者一同ずっこけるだろう（笑）。これが、本当の東京衡機の姿なのだ。社員はかわいそうだけど、あなた方が勤務する会社は、そういう会社だということだ。これは、全て完全なる証拠があるし、裁判になっても、証拠力は十分であると思料するので、どうぞ訴えてもらってかまわない。

まず、東京衡機というのは、こういう会社だということを知りたい。そもそも松尾親子に入り込まれた時点で、信用できない底辺上場企業なのは確定なのであるが、さらに上塗りするのだから、この石塚社長というのは、経営センスのかけらもないのだろう。

石塚社長は、池田銀行出身、不動産会社経営という経歴のようだから、「コンプライアンス」とか「反社」とかいう言葉には、普通の人より一層敏感でなければならない。実際、そのような素養や知見が十分にあるという前提だからこそ、上場企業の代表者に選ばれたはずだ。

こんな人物をいつまでも上場企業の経営に携わらせて本当に良いのだろうか？

**反社との関係について完全シカトを決め込む東京衡機！コンプライアンスは完全機能不全**

つまり、昨年以前から現在までいる旧経営陣たちは、松尾グループが入り込んできたことを知らなかつたようなのだ。ところが、敬天新聞でばらされて、真実が世間に知れてしまったので、大変なことになっているというのが真相らしい。

ということで、今では、旧経営陣と新経営陣（松尾グループ）の間で、揉めているようだ。実際には、「石塚代表が松尾と仲良しの件」、「敬天新聞から質問状が来たのに独断で無回答と判断して重要事項を他の役員間で共有しなかつた件」、「未だ会社として法的措置を取らない件」、「石塚代表個人としても法的措置を取らない件」、そもそも「反社松尾との関係を否定もしないし釈明もしない件」、このあたりが社内で問題になっているようだが、そりやそうだろう。

#### 監査役会も機能不全か？

東京衡機は上場企業だから、会社法上の取締役会設置会社であり、社外取締役もいるし、監査役会設置会社もある。当然、取締役会には社外取締役も出席するし、監査役も出席し、お目付け役の機能を果たすことで取締役による経営暴走を防ぐというルールがある。

しかし、上記の東京衡機の状況をみて、果たしてこれらの会社法が規定するガバナンスが機能していると言えるだろうか？ましてや反社との関係について、否定できない上場企業など存在が許されるのか？その辺の数名程度の零細企業でも会社がつぶれてしまうような問題を、上場企業がやっていて良いのか？ほったらかして良いのか？

もはや、社外取締役、監査役、監査役会とか社内の話ではなく、東証、証取等の関係当局の問題にまで発展するだろう。すでに東京衡機のヤフー株式掲示板では、敬天新聞の記事が盛り上がりつつあるようだが、一般株主も盛り上がっているので、関係者は何らかの動きを見せないとまずいだろう。

当局としては、会社に状況報告を求めていていることと思われるが、少なくとも、取締役会が内輪揉めして機能不全であり、池本社外取締役は、反社の松尾グループだから、社外取締役にも期待できない。次は、監査役の出番であるが、監査役が公式に見解を公表したというのも現状確認できない。

つまり、監査役や会議体としての監査役会も機能不全なのではないか？という疑惑が出てくる。これでは、ガバナンスが完全に機能不全に陥ったと思われてもやむを得ないだろう。何より、前回投稿から5ヶ月も経過しているのに、どこからも発信がないのは、上場企業としての体をなしていない。今すぐ上場廃止すべきである。

## 監査役・水川聰弁護士が機能しなければ、実質コンプラ機能不全ではないか？

東京衡機には、以下の監査役がいる。(2022/10/6 現在・敬称略)

常勤監査役 鶴見 孝

監査役（独立社外監査役） 水川 聰（弁護士）

監査役（独立社外監査役） 玉虫 俊夫

監査役（独立社外監査役） 濑山 剛（公認会計士・税理士）

このうち、常勤監査役の鶴見氏は生え抜きだから、この危機を内部から乗り越えることは期待できないだろう。最後の砦は、独立社外監査役と称するお偉いさんたちであるが、このうち、玉虫氏はダイエー、イオンといった事業会社出身、瀬山氏は会計専門家である。実際には、コンプラの最後の砦は、水川弁護士しかいないと言ってよいだろう。

しかも、水川弁護士は、以下の所属事務所のサイトからもわかる通り、企業不祥事の専門家ということなのだから、尚更その職責を發揮することが求められる。

[https://www.iwaidalaw.com/lawyers/lawyers\\_07.html](https://www.iwaidalaw.com/lawyers/lawyers_07.html)

しかし、東京衡機では、自社と反社の関係について5ヶ月以上もシカトして「なかったこと作戦」を続けていたのだから、残念ながら、水川弁護士が眞面目に職責を發揮しているとは言い難い。

さすがに、水川弁護士も取締役会では声を荒げるくらいの勢いで石塚社長以下、経営陣に喝を入れていることと想像するが、5ヶ月も目に見えない状況が続けば、もはや職責を果たしているとは言い難い。もちろん、他の監査役においても、一応は上場企業の監査役なのだから、十分な職責を果たすべきである。

残念ながら、この会社は、代表取締役社長が反社の手先であって、社外取締役も反社の手先であって、旧経営陣はツツツツ言つても、カネを揃えられるのは反社の松尾グループだから、ズルズルやって役員報酬だけもらっておこう作戦になるのは容易に想像できるわけである。

だからこそ、監査役が役割を發揮すべきなのであるが、この監査役陣も職責を果たしているとは言い難い。最後は、監査役の中でも唯一の法曹であり、企業不祥事のプロであるはずの水川弁護士に期待するしかないが、それでダメなら東京衡機は終わりである。

しかし、実際にはもうオワコンなので、水川弁護士もさじを投げて辞任の時期を窺っているのかもしれない。そうやって取り残されるのは、いつの時代も一般株主や従業員たちな

のであるが、「弱いものが食われるののはしょうがない」というのが、全役員の総意なのかも  
しれない。

すでに水川弁護士の出番は来ているのである。実は、頑張って孤軍奮闘しているのかもしれないが、そろそろ目に見える形で動かなければ、結局、肩書先行の能力不足と指摘されかねないだろう。一応、年内は、最後の砦である水川弁護士の活躍に期待したい。